

NPO法人上越はつらつ元気塾

# 活動記録誌

## 未来の上越へバトンタッチを

NPO 法人上越はつらつ元気塾 塾長 渡邊 隆

人口 20 万人弱の地方都市；上越市は中世には上杉謙信が春日山城から統治し、雪深いこの街で歴史と文化を築いてきました。多くの人材を輩出し、歴史的に「教育」と「健康・福祉」が尊ばれる文化が根付いてきました。100 年を超える数々の小学校の存在や医療や健康・福祉の施設があります。前者は上越教育大学附属小学校、大手、大町そして高志小学校などで、学校教育の充実ぶりを示しており、後者は、今はもうなくなってしまったのですが、高田盲学校や看護学の発展に寄与した知命堂病院や大正時代から心の病気に積極的に取り組んでこられた川室病院などです。様々な支援が必要な人々を支える文化がたくさんあります。そして、現在では教育者を育てる国立大学法人上越教育大学と地域の医療・福祉を支える新潟県立看護大学が存在しているのです。こうしてみると、この上越には何か未来に継続している「文化力」みたいなものがあり、それが上越を元気にしていると確信しました。その元気を探りたいと言う思いが「上越はつらつ元気塾」を作るきっかけとなったのです。NPO「上越はつらつ元気塾」は 2010 年 7 月 21 日に設立記念フォーラムを開催し、スタートいたしました。この前に約 1 年と 6 ヶ月の NPO でない活動の歴史がございます

地域貢献を掲げる上越教育大学、新潟県立看護大学と上越市、新潟県上越地域振興局、それに新潟日報が連携し、地域が持っている「教育の力」、「支え合う力」を通して生き生きと暮らすことのできる豊かな地域社会を目指す市民フォーラムとして活動してきました。2006 年 5 月のキックオフシンポジウムから 2007 年 12 月の作家：五木寛之氏の最終講演会まで、12 回の元気塾に延べ 3670 人の方々の参加を得て終えたのが NPO 設立前の「上越はつらつ元気塾」でした。この講演会を最後には休会に入ったのですが多くの方々からの要望で NPO として再出発したのが現在の NPO「上越はつらつ元気塾」なのです。

再出発した新生 NPO「上越はつらつ元気塾」は 2010 年 7 月の設立記念フォーラムを開催し、2011 年 3 月 15 日に第一回の塾を行いました。それから現在まで 10 年間の間、「上越の元気の源はどこにあるのか」をテーマに活動し、多くの元気の源の発掘をしてきました。10 年間に展開されたテーマは実に興味深いものばかりです

「先輩に学ぶ」「坂口謹一郎先生が上越にもたらしたもの」「ものづくりから生まれる上越の力」「鉄道が生み出した上越の力」「電力から考える上越の元気」「前島密を生んだ上越の秘密」「上越の食の元気を探る」「雁木が生んだ上越のくらし」「上越の未来カレンダーを考える」などなどです。これらのテーマの探索は、実に楽しくも愉快的なものでした。

こうした約 10 年間の元気探しの活動により上越という街の特性や独特の文化が上越の元気につながっていることを明確にとらえることができました。私たちの NPO「上越はつらつ元気塾」は、この 10 年で、上越の元気の源を探り当てました。この宝物を新しい時代の上越で育てていかねばならない時がやってきました。次の時代へバトンタッチします。

次の時代の上越市はどんな街になっているのでしょうか？

それを予想するのに、人口減少がもたらす様々な現象を地方都市；上越に具体的に考えてみるのが重要なのです。そこで、最後のテーマを「上越の未来カレンダーを考える」という活動テーマにしました。

これまでに私たちが探り当てた「上越の元気の源」という財産を未来カレンダーから見える「未来の上越」にバトンタッチしたいのです。

元気塾の基本テーマ「上越の元気を探る」をこの未来カレンダー作成と言うことで 1 つの区切りをつけたいと思います。2021 年度を持って、NPO 法人上越はつらつ元気塾を閉じることとします。

これまでのご理解とご支援に深く感謝いたします。ありがとうございました。